

GLORIA

Glória in excélsis Déo.
 Et in térra pax homínibus bónae voluntátis.
 Laudámus te. Benedícimus te. Adorámus te. Glorificámus te.
 Grátias ágimus tíbi própter mágnam glóriam tuam.
 Dómine Déus, Rex coeléstis, Déus Páter omnípotens.
 Dómine Fíli unigénite, Jésu Chríste.
 Dómine Déus, Ágnus Déi, Fílius Pátris.
 Qui tóllis peccáta mún-di, miserére nóbis.
 Qui tóllis peccáta mún-di, súscipe deprecatió-nem nóstram.
 Qui sédes ad délixteram Pátris, miserére nóbis.
 Quóniam tu sólus sánctus. Tu sólus Dóminus.
 Tu sólus Altíssimus, Jésu Chríste.
 Cum Sáncto Spírítu in glória Déi Pátris. Amen.

(訳詞) 栄光の讃歌

天のいと高きところには、神に栄光、
 地には、善意の人に平和あれ。
 われら主をほめ、主をたたえ、主をおがみ、主をあがめ、
 主の大なる栄光のゆえに、感謝したてまつる。
 神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
 主なる御ひとり子、イエズス・キリストよ。
 神なる主、神の小羊、父の み子よ。
 世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
 世の罪を除きたもう主よ、われらの願いをききいれたまえ。
 父の右に坐したもう主よ、われらをあわれみたまえ。
 主のみ聖なり、主のみ王なり、*
 主のみいと高し、イエズス・キリストよ。
 聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。アーメン。

*ラテン原語は「あなただけが主である」という意味。

SANCTUS

Sánctus, Sánctus, Sánctus, Dóminus Déus Sábaoth.
 Pléni sunt coéli et térra glória túa.
 Hosánna in excélsis.
 Benedíctus qui vénit in nómine Dómini.
 Hosánna in excélsis.

(訳詞) 感謝の讃歌

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。
 主の栄光は天地にみつ。
 天のいと高きところにホザンナ。
 ほむべきかな、主の名によりて来たる者。
 天のいと高きところにホザンナ。

「泉」

詩・相浦清子

そこから
 長い旅ははじまる
 その一しづくは
 ひそかなふところに
 わかれを つげて

そこから

無垢のよいものが湧き出ている
 その岩のかげから

清く澄み
 にごりをしらず
 すゞしくさえ
 いのちを含み
 歡びを謳い
 めぐみに照り映えて
 あふれほとばしる
 まばゆい姿

ながい旅よ――

出会うものを
 享け入れては染まり
 素直に自己を与えては
 変りゆく景色のまゝに
 さだめなく
 さすらい流れ
 ただよい流れ
 逆巻き
 泡立ち
 渦巻き 流れ――

あゝ
 やがては今の
 その姿を失い
 もはや 見知らぬものに
 うつりゆくのか――

おかえり
 おかえり
 あの母の
 ふところに

ほこらかにけなげに
 つとめ果たすとも
 そのみもりと勝利をかかげ

あやまち まどい
 けがれ果てるとも
 その疲れと敗北をひきずり

わすれず
 ためらわず
 おかえり
 おかえり

あそこに
 無垢のよいものが湧き出ている

あの岩のかげに
大地の深みから

AVE VERUM CORPUS

Ave verum Corpus, natum
De Maria Virgine:
Vere passum, immolatum
In cruce pro homine:
Cujus latus perforatum
Unda fluxit sanguine:
Esto nobis praegustatum
In mortis examine.

O dulcis! O pie!
O Jesu Fili Mariae,
miserere mei. Amen.

(訳詞) 栄えあれまことなるおからだ
栄えあれ、まことなるおからだ、
処女マリアより生まれた方よ。
まことに あなたは人類のため
十字架で苦しまれ 犠牲となりました。
わき腹を刺しつらぬかれ
そこから血を流されました。
死の試練のときにはあらかじめ
わたしたちに味わわせてくださいますように。

やさしい方、慈しみふかい方、
マリアの御子イエス様、
わたしをお憐れみください。アーメン。

「三つの抒情」

或る風に寄せて 詩 立原道造

おまへのことでいっばいだった 西風よ
たるんだ唄のうたひやまない 雨の晝に
閉ざした窓のうすあかりに
さびしい思ひを噛みながら

おぼえていた をのきも 顫へも
あれは見知らないものたちだ……
夕ぐれごとに かがやいた方から吹いて来て
あれはもう たたまれて 心にかかっている

おまへのうたった とはい調べだ——
誰がそれを引き出すのだらう 誰が
それを忘れるのだらう——さうして

夕ぐれが夜に變るたび 雲は死に
そそがれて来るうすやみのなかに
おまへは 西風よ みんななくしてしまった と

北の海

詩 中原中也

海にゐるのは、
あれは人魚ではないのです。
海にゐるのは、
あれは、浪ばかり。

曇った北海の空の下
浪はところどころ齒をむいて、
空を呪ってゐるのです。
いつはてるとも知れない呪。

海にゐるのは、
あれは人魚ではないのです。
海にゐるのは、
あれは、浪ばかり。

「柳河風俗詩」

詩 北原白秋

(I) 柳河

もうし もうし 柳河じゃ 柳河じゃ
銅の鳥居を見やしゃんせ
欄干橋を見やしゃんせ
(馭者は喇叭の音をやめて
赤い夕日に手をかざす)

薊の生えた その家は
その家は
古いむかしの遊女屋
人も住まはぬ遊女屋

裏のBANCOに居る人は……*
あれは隣の縫娘縫娘
水に映ったそのかげは
そのかげは
母の形見の小手鞆を
小手鞆を
赤い毛糸でくくるのぢゃ
涙片手にくくるのぢゃ

もうし もうし 旅のひと
旅のひと
あれ あの三味をさかしやんせ
鳩の浮くのを見やしゃんせ
(馭者は喇叭の音をたてて
赤い夕日の街に入る)

夕焼小焼
明日天気になあれ

*BANCO 緑台 葡萄牙語の転訛か

(Ⅲ) かきつばた

柳河の
古きながれのかきつばた
昼はONGOの手にかきり*
夜は萎れて
三味線の
細い吐息に泣きあかす
(鳩のあたまたに火ん點いた
潜んだと思うたらちい消えた)

*ONGO 良家の娘(柳河語)

(Ⅳ) 梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま
けふの午から忠信が
隈取紅い シャツ面に
足どりかろく 手もかろく
狐六法踏みゆかむ 花道の下
水ぐるま……

廻せ 廻せ 水ぐるま
雨に濡れたる古むしろ
円天井のその屋根に
青い空透き 日光の
七宝のごときらきらと
化粧部屋にも笑ふなり

廻せ 廻せ 水ぐるま
梅雨の晴れ間の一日を
せめて楽しく浮かれよと
廻り舞台も滑べるなり
水を汲み出せ その下の
葱の畑のたまり水

廻せ 廻せ 水ぐるま
だんだら幕の黒と赤
すこしかかげて なつかしく
旅の女形もさし覗く
水を汲み出せ 平土間の
田舎芝居の葎畑

廻せ 廻せ 水ぐるま
はやも昼から忠信が
紅隈とった シャツ面に
足どりかろく 手もかろく
狐六法踏みゆかむ
花道の下 水ぐるま

「六月のかたつむり」 詩 征矢泰子

白いシクラメン

いま
ちょうどななつめのしくらめんのはなが
ひらいたところでは
はくちょうよりもしろく
うなじをたかくもたげて
いま ちょうど
ななつめのしくらめんのはなが
さいたばかりです
しはすのしろいひかりのなかで
はねをこころもちうしろにひいて
いまにもとびたとうとするちょうのような
ななつめのしくらめんのはなを
ただひたすらみつづけていると
せかいはいどくしずまりかえり
すきとおり
なにもかもがまるで
えいがのらすと・しいんのように
うつくしくとおざかっていくのがわかります
なぜあれほど
たったひとつのらちもないことばに
こだわりつづけていたのだろう
なぜにくむのかなぜかなしむのか
わたしのなかで
ほぐしようもなくむつぼれていたおもいが
しろいしくらめんのはなびらのうえを いま
やわらかくほどけながらとおくとおくと
とおざかっていくのがみえます

HORATII CARMEN II.10.

Rectius lives Licini nequ' altum
Semper urgendo neque dum procellas
Cautus horrescis nimium premendo
litus iniquum.

Auream quisquis mediocritatem
Diligit tutus caret obsoleto
Sordibus tecti caret invidenda
Sobrius aula.

Saeptius ventis agitur ingens
pinus et celsae graviore casu
Decidunt turres feriuntque summos
fulgura montes.

(訳詞) ホラティウスの詩(貴き中庸)

リキニウスよ、遠洋に漕ぎ出すばかりではなく、
かといって岸辺に迫りくる嵐を恐れてばかりいないで、
堅実な生き方をするのです。

中庸であることを貴ぶような賢明な人なら、
古びたあばら屋に住んだり、
人も羨むような豪邸に住んだりはしないものです。

高い松の木ほど風に揺すられ、
豪華な塔ほど重大な問題が起こって崩れ去り、
山も山頂ほど落雷にさらされるものなのです。

SZÉKELY KESERVES

Aj, sirass édes anyám, míg előtted járok,
Mer aztán sirathatsz, ha útnak indulok.
Útnak indulásom, nincsen maradásom.
Az irigyek miatt esett bújdosásom.

Istenem, Istenem, hol lészén halálom?
Erdőnő, vagy mezőn, vagy pedig tengერեն?
Ha erdőn veszék el, ki temet el engem?
Ha tengერեն veszék, ki sirat még engem?

Tengերnek nagy partja: Koporsóm oldala,
Tengերnek mélysége: Koporsóm feneke,
Tengեր sűrű habja: Szēmfeedingem lészén,
Tengերnek zúgása:harangszóm is lészén.

El is eltemetnek az erdei vadak,
Még is męgsiratnak az égi madarak,
Az erdei vadak.
Az égi madarak.

(訳詞) 苦悩の日々

ああ母よ、私がまだあなたの前にいるうちに悲しんでください
後は私が旅立つ時にしか悲しむことができないのですから
旅先で私は身を寄せるところもなく
追っ手を避けておちぶれた隠遁生活を送るのです。

ああ神さま、私はどこで死を迎えるのでしょうか？
森で、野原で、はたまた海ででしょうか？
森で死んだら一体誰が葬ってくれるのでしょうか？
海で死んだら一体誰が悲しんでくれるのでしょうか？

海に接する広大な岸辺は、私の棺桶の縁で
海の深淵は、私の棺桶の底板で
海に漂う茶は、私の棺桶の掛け布で
海の潮騒は、私を弔う鐘の音なのです。

私のことを葬ってくれるのは、森の生き物たちで
私のことを悲しんでくれるのは、楽園の鳥たちなのです。

SIRATÓ ÉNEK (Bodrógh Pál)

Óh ti néma társak, bús, halott barátok
Lészakadt réátok a nagy vérés átok.
Vittéték a tüzet, a mennyei szépet,
Míg az óriült rém jött s mindent összetépött.
Végeszakadt akkor versnek és mesének.

Eltört a hegedű, męgfagyott az ének.
Rátok gondolunk most néma társainkra,
Bennetek kialudt, bennünk él a szikra.
S úgy van az már mindig, sok ezer év óta:
Dalnok jó, dalnok męgy, de örök a nóta.

(訳詞) 哀歌

詩 ボドログ・パール

ああ、黙ってしまった仲間たちよ、哀れな死んだ友人たちよ、
血ぬられた呪いがあなた達をずたずたにしたのだ。
火を、そして、天なる美しさを奪っていったのだ、
狂気の悪魔がやって来て全てを引き裂いていったときに、
そして詩や物語は途絶えてしまった。
提琴は壊れ、歌は凍りついてしまった。
私たちは今、その黙ってしまった仲間たちに思いをはせる。
命はあなた達の中では燃え尽きたが、私たちの中では生き続ける。
幾千年の昔からそうであるように、
「歌い手は現れては消えて行くが、旋律は不滅」なのだ。

O MAGNUM MISTERIUM

O magnum misterium,
et admirabile sacramentum,
ut animalia viderent Dominum natum,
jacentem in praesepio.
Beata Virgo,
cujus viscera meruerunt portare Dominum Christum.

(訳詞) おお、おおいなる神秘

おお、おおいなる神秘、
そして驚くべき秘跡。
いかに動物たちは主が生まれるのを見るか、
飼葉桶の中に横たわるのを。
祝福されたる処女よ、
その胎は主キリストをもたらすことを得たるなり。

HODIE CHRISTUS NATUS EST

Hodie Christus natus est:
Hodie salvator apparuit:
Hodie in terra canunt Angeli,
laetantur Archangeli:
Hodie exsultant justi dicentes:
Gloria in excelsis Deo, alleluia.

(訳詞) 今日、キリストは生まれたまいぬ

今日、キリストは生まれたまいぬ、
今日、救い主は現れたまいぬ、
今日、天使らは地にて歌い、
大天使らは喜び祝う、
今日、正しき者らは歡呼して言う、
いと高き所には神に栄光あれと、
アレルヤ。

※合同演奏の「二十億光年の孤独」の詩は
本文10～11ページをごらん下さい。